

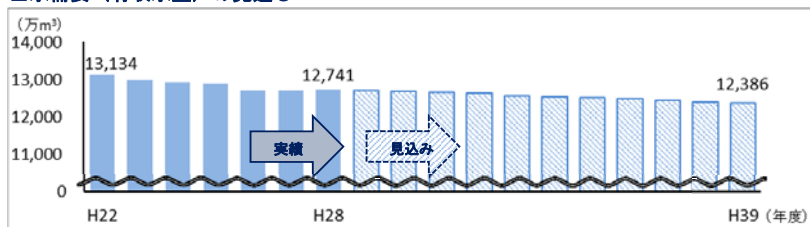
第1章 改定趣旨

1 改定に当たって

本市では、将来にわたって給水の安全性・安定性を確保しつつ、持続可能な水道システムを構築していく事業運営の指針として、平成21年度（2009年度）に広島市水道ビジョンを策定するとともに、その実行計画として、4年ごとに中期経営計画を策定し、事業運営を行っています。

今後、水需要や給水収益の更なる減少が予測される一方、水道施設の更新需要の増加、災害対策の充実に対応していく必要があります。こうした状況を踏まえ、将来にわたってお客さまから信頼される水道であり続けるために、本ビジョンを改定します。

■水需要（有収水量）の見通し



2 位置付け

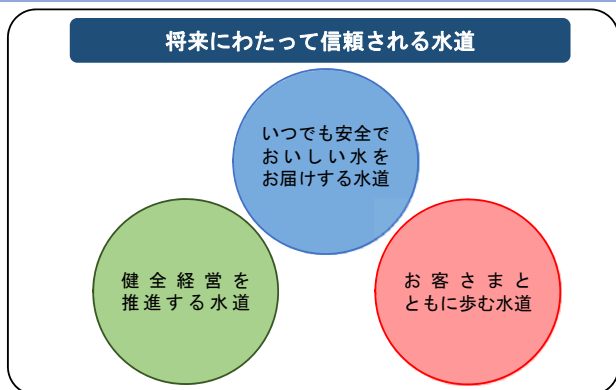
広島市基本計画の部門計画とし、「世界に誇れる『まち』の実現に向けて一市政推進に当たった基本コンセプト」を踏まえた計画とします。また、厚生労働省が策定を要請する「水道事業ビジョン」及び別途策定する「中期経営計画」と合わせて総務省が策定を要請する「※1 経営戦略」に位置付けます。

※1 経営戦略 将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。

3 計画期間

平成30年度（2018年度）から平成39年度（2027年度）を計画期間とします。

第2章 基本理念

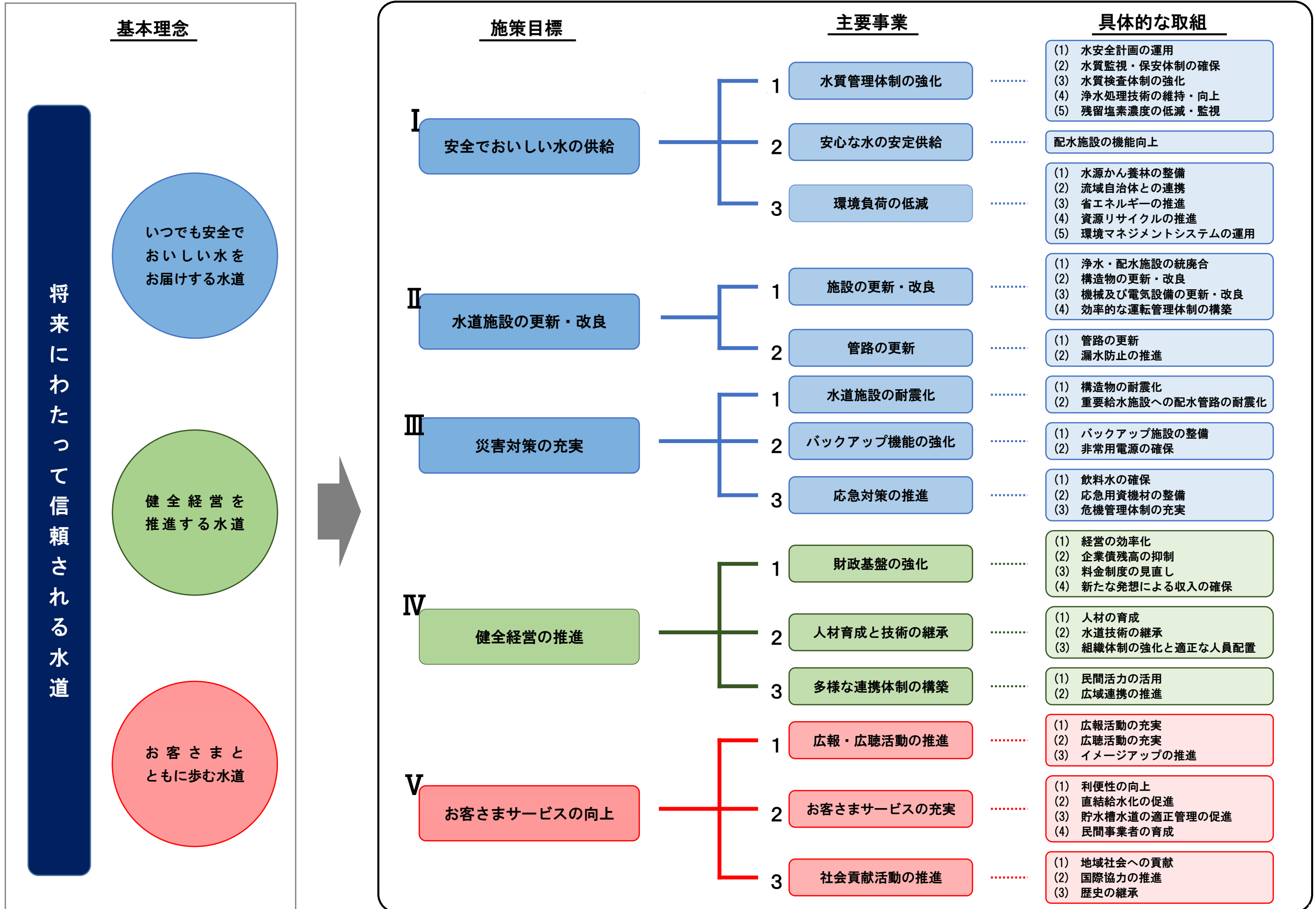


第3章 現状と課題

項目	現状	課題
1 水需要	水需要が過去最高となった平成4年度と比較して、平成28年度は約11%減少しています。特に業務用は、節水型設備等の影響により減少傾向が続いています。	今後も更に水需要の減少が見込まれるため、財政面への影響や施設規模の適正化への対応に取り組む必要があります。
2 水質管理	水源の水質は良好であるものの、毎年油の流出等の水質事故が発生しています。水源から蛇口までの総合的な水質管理を定めた「※2 水安全計画」を平成26年度から運用しています。	長期的には気候変動の影響による水質悪化も予測されており、注意が必要です。さらには、よりおいしく水道水を飲んでいただけるよう、残留塩素濃度の低減に取り組む必要があります。
3 水道施設	浄水場や配水池などの施設は、339か所と多く、管路延長は、4,817kmにも達します（平成28年度末現在）。これらの水道施設の多くは、昭和40年代以降に整備しています。	今後、水道施設の老朽化が進むため、「※3 維持保全計画」に基づいて、長寿命化と更新を着実に実施するとともに、管路更新のペースアップを図る必要があります。
4 危機管理	大規模地震等に備えて、水道施設の耐震化や相互連絡管の整備によるバックアップ機能の強化を進めています。	水道施設の耐震化等に取り組むとともに、災害時により迅速な対応が行えるような体制の構築に取り組む必要があります。
5 環境保全	水道水の供給には、多量のエネルギーを使用するなど、環境への負荷を伴うため、省エネルギーの取組のほか水源かん養林の整備等を行っています。	電力使用量の削減等に取り組むとともに、より環境に配慮した事業運営に取り組む必要があります。
6 経営	水需要の減少及び水道施設の老朽化対策等により経営環境は厳しさを増しています。また、水需要構造が変化し、料金収入に影響を及ぼしています。	経営の効率化や財務体質の強化など財政マネジメントの向上に取り組むとともに、料金体系の在り方を考える必要があります。
7 広域連携	行政区域外へ給水するほか、施設の共同化や管理の一体化等を実施しています。	周辺自治体と連携し、水道事業が抱える問題に取り組む必要があります。
8 サービス	積極的な情報発信に努め、平成22年度に「引越お客さま受付センター」を設置するなどサービスの充実に努めています。	お客さまとの相互理解を深めるとともに、お客さまニーズ等を考慮して、更なるサービスの充実に努める必要があります。

※2 水安全計画 水道水の安全性を一層高め、将来にわたってお客さまにより安全で安心な水道水を安定的にお届けするための水源から蛇口までの総合的な水質管理計画です。

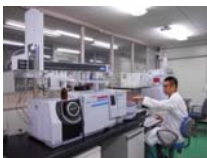
※3 維持保全計画 おおむね50年先を見据え、水道施設の特性や、補修・補強などによる長寿命化の効果を考慮して、適切な更新時期を定めた計画です。



施策目標Ⅰ 安全でおいしい水の供給

主要事業1 水質管理体制の強化

水源から蛇口までの水質管理を徹底するため、「水安全計画」を適切に運用するとともに、水質の監視及び検査体制を確保します。また、環境変化に伴う水質変動にも対応できるよう、浄水処理技術の維持・向上を図るとともに、おいしい水を供給するため、残留塩素濃度の低減に努めます。



▲水質の検査

主要事業2 安心な水の安定供給

安心な水を安定的に使用していただけるよう、配水管路などの整備に取り組みます。

主要事業3 環境負荷の低減

豊かな清流である太田川を次世代に引き継いでいくため、水源かん養林を整備し、関係機関と連携して水道水源の保全に努めます。また、省エネルギーや資源リサイクルを推進するとともに、取組状況を分かりやすく情報提供します。



▲「広島市・太田川源流の森」での森林保全活動

施策目標Ⅱ 水道施設の更新・改良

主要事業1 施設の更新・改良

浄水場や配水池等の施設については、※4アセットマネジメントを踏まえ、点検・補修を適切に実施することにより長寿命化を図った上で、計画的に更新を推進します。また、施設の更新に併せて、耐震化や統廃合等による維持管理効率の向上を図ります。



▲更新した坪井配水池

※4 アセットマネジメント 将来にわたって水道事業の経営を安定的に継続するための、長期的視野に立った計画的な資産管理です。

主要事業2 管路の更新

管路については、アセットマネジメントを踏まえ、点検や漏水防止調査の結果を活用して既存の管路を評価し、優先順位を設定した上で、計画的に更新を推進します。また、管路の更新に併せて耐震化を図ります。



▲管路の更新工事

施策目標Ⅲ 災害対策の充実

主要事業1 水道施設の耐震化

地震による被害を最小限にとどめるため、計画的に水道施設の耐震化を推進します。災害拠点病院等の重要給水施設への配水管路については、優先的に耐震化を実施します。

主要事業2 バックアップ機能の強化

事故や災害に備えて配水幹線の相互連絡管等のバックアップ施設を整備するとともに、停電に備えて非常用電源を確保します。



▲国道2号（江波大橋）に架けた広島南配水幹線

主要事業3 応急対策の推進

水道施設が被災した直後においても必要最低限の飲料水をお届けできるよう、拠点給水施設や応急用資機材を整備します。また、災害発生時にも迅速かつ的確な対応ができるよう、危機管理体制の充実を図ります。



▲給水タンク車用水栓柱

施策目標Ⅳ 健全経営の推進

主要事業1 財政基盤の強化

経費の削減や収入の確保など経営の効率化に努め、財政負担を軽減するとともに、将来世代へ過度の負担を招かないよう、企業債残高を抑制します。また、新たな発想による収入の確保に取り組みます。



▲本市水道技術研修センターでの維持管理研修

主要事業2 人材育成と技術の継承

公営企業の職員に必要な経営感覚や業務遂行能力を有する人材の育成及び水道技術の継承を図るとともに、長期的な視点で組織の整備や人員の適正配置に努めます。



▲広島県内の合同防災訓練

主要事業3 多様な連携体制の構築

民間活力を活用した業務の効率化を検討するとともに、経営基盤の強化に向けて周辺自治体との連携を推進します。

施策目標Ⅴ お客さまサービスの向上

主要事業1 広報・広聴活動の推進

お客さまの関心が高い情報を把握し、積極的な情報発信に努めるとともに、お客さまの声を的確に事業運営に反映させます。また、水道水を活用したPRを実施し、水道水のイメージアップを推進します。



▲ひろしまフラワーフェスティバルへの出展

主要事業2 お客さまサービスの充実

「引越お客さま受付センター」等の充実を図り、お客さまの利便性の向上に努めます。また、直結給水の普及や貯水槽水道の適正管理を促進するとともに、水道工事の施行等に携わる民間事業者の育成に努めます。



▲ライフライン防災教室

主要事業3 社会貢献活動の推進

地域に根ざした公営企業として地域社会への貢献に努めるとともに、海外からの技術研修員の受入れを通じて、水道分野における国際協力を推進します。また、広島市水道の歴史を発信し、次世代へ引き継ぎます。